



野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪



NEWS



エフコムベースボールクラブ

第17回JABAスポニチ福島支局杯

◇◇試合結果◇◇

準決勝 V S 郡山ベースボールクラブ (20対0) 勝利

決勝 V S オールいわきクラブ (1対2) 敗戦

エフコム道方 康友 監督、主将の松嶋 拓郎 内野手より
本大会のコメントをいただきました！

道方 康友 監督

第17回JABAスポニチ福島支局杯を終えて。初戦は郡山BCに20対0の五回コールド勝ち、投手陣も無失点と力を発揮しました。決勝のオールいわきクラブ戦は投手戦となり六回に2失点。

最終回に1点を返し二死2、3塁と逆転の好機を作るも、1対2で惜敗しました。この敗戦を糧に課題へ取り組んでまいります。

今後ともご支援・ご声援をよろしくお願い致します。

松嶋 拓郎 内野手 (主将)

第17回JABAスポニチ福島支局杯へのご声援、誠にありがとうございました。

今大会は準優勝でした。投手陣が2試合で2失点と粘った一方、決勝では完封目ままで抑えられ、攻撃面に明確な課題が残りました。

全国大会を終えた今は様々な挑戦ができる貴重な期間です。

課題の一つひとつ向き合い、さらなるレベルアップを目指してまいります。

TEAM	一	二	三	四	五	六	七	八	九	R	H	E
エフコム	3	4	9	4	0					2017	1	023
郡山BC	0	0	0	0	0							
B										PL 1B2B3B		
H										本橋 齊大		
S										間本 藤田		
E												
O												
Fe												
TIME										23 球		
PITCHES												
SPEED												

5	4	9	D	3	8	6	7	2	P
渡邊	中	伊	島	豊	大	岩	安	高	達
1	2	3	4	5	6	7	8	9	
8	5	6	3	1	2	9	4	7	
田	松	長	坪	橋	松	吉	山	相	
中	本	尾	井	本	川	藤	口	菜	

TEAM	一	二	三	四	五	六	七	八	九	R	H	E
エフコム	0	0	0	0	0	2	0			240		
郡山BC	0	0	0	0	0	0	0			140		
B										PL 1B2B3B		
H										第一 大本		
S										藤田 中		
E										田 中		
O										田 中		
Fe										田 中		
TIME												
PITCHES												
SPEED												





野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪



NEWS



エフコムベースボールクラブ

準決勝 V S 郡山ベースボールクラブ

第17回JABAスポニチ福島支局杯の舞台は本宮市・しらさわグリーンパーク球場。
準決勝から登場の連覇記録更新を狙うエフコムBCは初回、エフコムBC打線がいきなり襲いかかる。走者をためると集中打で**3点**を先制。ベンチのボルテージは開始10分で最高潮に達する。
先発の佐野は立ち上がりからテンポよくアウトを重ね流れを渡さない。
二回にはさらに**4点**を加えて7-0。郡山BBCの投手は休む間を与えてもらえずエフコムBCの打者は一巡、二巡と回り続ける。
そして三回。この回、球場の空気が完全に変わった。打線がつながり、つながり、なお止まらない・・・**一挙9点**。
スコアボードの数字が2桁に届き、16-0。
四回にも**4点**。20-0。エフコムBCの投手陣は郡山BBCに一度も本塁を踏ませず、継投で五回を無失点で締めてゲームセット。
20対0、五回コールド。完勝で、エフコムBCが決勝進出を決めた。

佐野 怜弥 選手
投手/出身校
北照高等学校 ⇒ 仙台大学

伊藤 琉晟 選手
外野手/出身校
酒田南高等学校⇒富士大学



伊藤 海斗 選手
外野手/出身校
酒田南高等学校

中居 泰雅 選手
内野手/出身校
水城高等学校 ⇒ 日本ウェルネススポーツ大学



※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。



野球で福島を元気に!
繋げよう絆・広げよう地域の輪



NEWS



エフコムベースボールクラブ

決勝 V S オールいわきクラブ

第17回JABAスポニチ福島支局杯、決勝の相手はオールいわきクラブ。エフコムBCの先発は山上。初回から力のある直球で押し込み、危なげない立ち上がりを見せる。

一方の打線は、準決勝で20得点を叩き出した強力打線。しかし相手先発の打たせて取るピッチングの前に、快音が続かない。なかなかチャンスを作ることができないままイニングだけが進んでいく展開。両投手の好投で、スコアボードにはゼロが並んだ。

拮抗した試合がついに動いたのは六回。五回まで被安打2と完璧に抑えていた山上が、この回先頭に四球を与える。送りバントで一死二塁。ここで痛恨のタイムリー三塁打を浴び、ついに先制を許した。なおも続くピンチにマウンドはキング小口へ。しかし後続を断ち切れず、この回2失点。0-2と、拮抗した試合展開の中では重すぎる2点となった。

反撃は七回。一死から松嶋がレフトへ二塁打を放ってチャンスを作ると、続く大河内がしぶとくライト前へ運び、1点をもぎ取る。さらに四球で一、二塁と走者をため、一打同点、長打が出ればサヨナラという場面まで攻め立てた。

しかし後続が倒れ、ゲームセット。1対2。大会5連覇はなりませんでした。

山上 遼真 選手
投手/出身校
弘前学院聖愛高等学校 ⇒ 仙台大学



島崎 開史 選手
外野手/出身校
日立第一高校⇒福島大学



吉田 浩隆 選手
投手/出身校
浦和実業学園高等学校⇒ 富士大学



茨木 響也 選手
投手/出身校
学校法人石川高等学校 ⇒ 八戸学院大学



※ユニバーサルデザインフォント「みんなの文字」を使用しております。